

1 中期的な学校運営の目標・方針

- 1 「指導の重点」「夢ある教育」の推進と、建学の精神を实践する。『自分をつくる ふる里をつくる 明日をつくる』
- 2 「求める学校像・生徒像」を具現化する。『自立 創造 共生』
- 3 「学校づくり」を重点化し推進する。
  - ・地域に根差した教育を推進し、地域に開かれた魅力ある学校
  - ・一人一人の生徒を理解し、望ましい人間関係を築いていく学校
  - ・危機管理を徹底し、安全・安心のある学校
  - ・ふる里を愛する心を育て、明日の佐用を担う生徒の育つ学校
  - ・教職員が指導力を発揮し、実践力を相互に高め、磨き合う学校

2 年度の重点目標

- (1) 自立して未来に挑戦する態度の育成
  - ・社会的自立に向けたキャリア形成の支援
  - ・進路指導の充実
  - ・小中連携教育の充実
- (2) 「生きる力」を育む教育の推進
  - ・確かな学力の育成
- (3) 子どもたちの学びを支える仕組みの確立
  - ・安全・安心な生活・学習環境を整備
  - ・生徒指導の充実
  - ・教職員の資質能力の向上
  - ・情報の発信と保護者、小学校、地域との連携

3 学校自己評価(A 優れている B 良い C おおむね良好 D 要改善)

分野	評価項目・取り組み内容	達成状況	学校の取り組み状況・改善の方策
学校運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>○集団生活を営む上での規範意識のさらなる高揚、定着を目指す。                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・規律正しい登下校を目指す。(ヘルメット、タスキ、時間厳守)</li> <li>・いじめの未然防止、早期発見、早期対応</li> <li>・いじめの積極的認知(アンケート、生活ノートの活用等)</li> </ul> </li> <li>○教職員の資質向上を目指す。                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業力の向上を目指し、相互授業参観をし意見を言い合う。</li> <li>・研修講座等へ積極的に参加する。</li> </ul> </li> <li>○学校業務の改善を行う。                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・会議の効率化、定時退勤日・ノ一部活デーの実施</li> <li>・ノ一部活デーを毎週水曜日・第2・4日曜日に設定する。</li> </ul> </li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○毎日の登下校指導や昼休み巡回指導により、安全で落ち着いた登下校や学校生活が送れている。                     <ul style="list-style-type: none"> <li>→ 3年生に数名遅刻をしがちな生徒がおり、継続的に声かけを続け改善を図っている。</li> </ul> </li> <li>○いじめアンケートや生活ノート・面談等で早期発見や積極的認知に努めた。                     <ul style="list-style-type: none"> <li>→ アンケートや保護者、生徒からの訴えにより、数件のいじめを把握した。指導し一応の解決はしているが慎重な経過観察に努めている。</li> </ul> </li> <li>○新規採用の3名を中心に相互に授業を公開し合い、研修する体制を構築した。                     <ul style="list-style-type: none"> <li>→ 今後も継続して相互に授業参観して、意見を交流する機会をつくっていきたい。</li> <li>→ 若い教職員を自分たちが指導し、見本を見せ伸ばす、そんな雰囲気高めたい。</li> </ul> </li> <li>○ノ一部活デーの趣旨や内容を便りや部活通信等で生徒・保護者に伝え、混乱なく導入できた。                     <ul style="list-style-type: none"> <li>→ 退勤時刻の遅い教職員が数名いる。意識改革や業務処理の効率化を図るとともに、他の教職員で分担するなど協働体制を強化する。</li> </ul> </li> </ul>
教育課程	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学習習慣の定着を図る。                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・高校進学に向けた確かな学力を育む。</li> <li>・わかる授業の展開、自主的・主体的な学びの促進</li> <li>・家庭学習の重要性を指導し日々の家庭学習の充実を目指す。</li> <li>・特別支援委員会を学期2回開催し実態把握を行い、必要な個に応じた支援内容を確認する。</li> <li>・学習指導委員会を定期開催し、生徒の支援体制を構築する。</li> <li>・ICT機器を積極的に活用し、学習効果を高める。</li> </ul> </li> <li>○校内研修として道徳の授業・カウンセリングマインド研修を進める。                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・講師を招き道徳の授業研究を行う。</li> <li>・カウンセリングマインド研修を進める。</li> </ul> </li> <li>○活力ある生徒を育成する。                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・大きな声で挨拶をする。大きな声で返事をする。大きな声で校歌を歌う。心をこめて『創自』をする。目標を持ち努力する。</li> </ul> </li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学習指導委員会が中心となり、宿題精算日を設けたり、朝学習や読書の質の向上が図れた。                     <ul style="list-style-type: none"> <li>→ 学習習慣が定着できていない生徒が1, 2年生に数名いる。粘り強い指導を続けている。</li> </ul> </li> <li>○特別な支援を要する生徒(サポートファイル対象者等)に対しては個別に記録ファイルを作成して、授業ごとの状況を把握し、支援の方向性と具体的な関わりを共有した。                     <ul style="list-style-type: none"> <li>→ 年度末に総括を行い、対象者を確認し、必要な支援を確認した上で次年度の教育課程を作成する。</li> </ul> </li> <li>○指導方法の工夫改善をし、対話的で深い学びの実現を目指した。                     <ul style="list-style-type: none"> <li>→ ICT機器の積極的な活用ができた。機器が不足する場面もあり町へ要望している。</li> <li>→ 生徒の学力定着や、対話的で深い学びにつながる授業実現を目指そうとする雰囲気を職員室で高めたい。</li> </ul> </li> <li>○来年度より教科化される道徳は講師を招聘し、副担任も含め全員が授業公開し研修した。                     <ul style="list-style-type: none"> <li>→ スクールカウンセラーによる教職員研修を2回、生徒への心の健康教室を12時間実施した。</li> <li>→ 来年度も継続したい。</li> </ul> </li> <li>○生徒会のリーダーシップもあり3年生から、1, 2年生への伝達がよくできている。                     <ul style="list-style-type: none"> <li>→ 『創自』を中心とした縦割り活動がうまく機能しているので継続したい。</li> </ul> </li> </ul>
課題教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>○『創自』活動を通して、自分に向き合い、自らを磨こうとする態度と自己有用感を高める。</li> <li>○福祉の心を育て、体験活動を通して実践的意欲を育成する。                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・朝陽ヶ丘荘、朝霧園での奉仕活動を行う。</li> <li>・手話教室・認知症サポーター講座を開催する。</li> </ul> </li> <li>○小中の連携を密にする。                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・『創自』活動を通して小学校と連携し、この活動の趣旨や成果を校区に広める。</li> </ul> </li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒が小学生に対して3回にわたり『創自』レクチャーを行うことは、毎日の取り組みをしっかりと行うこと、そして、自己有用感の高揚につながっている。                     <ul style="list-style-type: none"> <li>→ 今後も佐用中を象徴する取り組みとして、さらに工夫し深めていく。</li> </ul> </li> <li>○生徒会主催の奉仕活動に76名の生徒が参加して、各施設の方に喜んでいただいた。</li> <li>○町の社会福祉協議会や健康福祉課と連絡を取り合い、成功裏に終わった。                     <ul style="list-style-type: none"> <li>→ 手話教室・認知症サポーター講座を来年度も継続していく。</li> </ul> </li> <li>○『創自』レクチャーや入学説明会、体験入学は、小学生にとっても意欲が高まるよい機会となった。                     <ul style="list-style-type: none"> <li>→ 来年度も継続していく。</li> </ul> </li> </ul>

4 学校評価の実施方法についての学校関係者評価

- アンケート結果や職員の反省を職員会議で報告し、達成状況、改善の方策を検討し、学校関係者評価委員会で説明し助言を得て、次年度の計画や実践に生かしている。
- 反省内容を引き継ぎ、1年スパンだけでなく、経年の変化や達成状況を把握していく。
- アンケート結果などの客観的資料や画像・生徒作品等を提示し、イメージしやすくする。

5 総合的な学校関係者評価

- 生徒が目を輝かせ、落ち着いて学校生活を送れているのは、日頃の取組の成果である。
- 問題が起こった時は、先生が抱え込まず、多数の先生や外部機関も巻き込んで対応して欲しい。
- 学校行事等は生徒を中心に考え、保護者や地域に対して学校側の意見を強く伝えて欲しい。

6 評価項目ごとの学校関係者評価

学校自己評価の結果及び改善方策についての評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>○いじめや虐待については世の中の関心は高い。もし認知すれば、丁寧に対応して関係機関に相談して欲しい。</li> <li>○行儀よく登下校できており、挨拶もしっかりできていてうれしく思う。</li> <li>○不登校生徒は根深い問題を抱えている。根気よく対応してやって欲しい。</li> <li>○教職員の勤務は激務だが健康管理に十分に気をつけて欲しい。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>○体育祭・オープンスクール・文化発表会はとてもよい表情で活動していた。先生との関係の良さを感した。</li> <li>○今年度の夏は異常気象であった。生徒の体調面を最優先しなければならない場面は増加するであろう。</li> <li>○塾で学習している時間は長いですが、家で机に向かう時間が少ない。机に向かい集中する時間をつくる習慣をつけたい。</li> <li>○部活動で頑張っている様子をよく聞く。各部の人数が少ないことに驚くとともに、今後の中学校部活運営を心配する。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域としても佐用中の『創自』は誇らしい。小学生や地域の方など、いろいろな人にPRして欲しい。</li> <li>○地域にそれぞれの分野で優れた方がおられるので依頼して協力願うとよい。</li> </ul>